



## 授業づくりの前に

授業は、教師が一人で作るものではなく、生徒とともに作るものです。

そのために、どのようなことに気を付けなければよいでしょうか。

第1章では、授業づくりの前にしておくべきことについて説明します。

ここがポイント ……………

はじめが肝心

## 1 教師の思いを伝えよう

### その思いを伝えよう

まずは、教師の思いを伝えること、そこから全てが始まります。

「生徒が話を聞いてくれない」、「指導って難しい……」など、授業を進めながらいろいろな課題に直面することがあるでしょう。そんなときは、互いの考えをぶつけ合い理解し合うことが必要です。教師が本音を語れば、生徒もついてきてくれるはずです。

教師は「教えるプロ」です。プロとして、堂々と思いを伝えることが授業づくりの第一歩です。 → 2章-2

### 授業を通して伝える思いとは

授業は、教科・科目という形で整えられ、知識や技能を伝えるとともに自ら学ぶ力を引き出す時間ということができます。

その教科・科目を学ぶことにどのような意味があるのか、学んだことがどのように役立つのかなどを教師が語ることで、生徒は、教科・科目に親近感を抱くはずです。

### はじめに伝えておくべきこと

何事もはじめが肝心です。1年間の授業を通して、何を学ぶのか、はじめに生徒に話しましょう。生徒との課題の共有が楽しい授業につながります。

また、教師と生徒と互いの準備があってこそ良い授業が実践できます。授業での約束事もしっかりと確認しましょう。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 学習スタイルの違いに配慮しよう！

視覚、聴覚、運動感覚等、認知特性の違いから人によって学び方には、得意・不得意があります。“熱い思い”は伝えても、教師自身のこれまでの学び方が、全ての生徒に合っていると限らないので押し付けにはならないようにしましょう。

→ 1章-6



## <例> 国語科の授業開き

国語科での授業開きの実践例を紹介します。

### 教師と生徒で創る国語教室

持ち物（教科書、ノート、辞書等）の確認をきちんと行い、この授業での約束事の確認をします。

### 縦書きは、日本の文化の一つ

例えば、古典（古文・漢文）の授業で、教師が日本の伝統文化に自信を持って授業に臨むためには、ノートは縦書きにして、学習させたいものです。縦書きの文化に触れさせることも国語科の授業で大切なことです。

### 目からウロコの漢字の話

生徒が身近に感じる「国語の知識」として、“漢字”があります。漢字の豆知識を話すだけでも、教師が国語に情熱を持っていることが伝わります。

### 言葉で説明することの楽しさと難しさ

言葉に興味を持たせるために辞書の話が有効です。

例えば、「もしもあなたが辞書の執筆者だったら、“心”の解説は何と書く？」という課題を出します。辞書の解説のように、端的に分かりやすく、表現する活動を通して、言葉への関心を深められます。

また、言葉によって日常生活が成り立っていることを、教師自身のエピソードを交えて話してもよいでしょう。

言葉は磨けばピカピカに光ります。鏡のように、その人自身を映す道具にもなります。反対に、使い方を間違えれば、言葉によって人を傷つけてしまうことにもなります。国語の授業では、言葉の大切さ、奥深さ、おもしろさを生徒に伝えましょう。

### ☆授業開きとは

授業開きは、生徒との出会いの瞬間です。最初の1時間の演出で、1年間の授業が決まるといえるくらい、大切な瞬間です。

また、長期休業明けも、気持ちを新たにするときですから、教師の思いを伝えるとよいでしょう。

## あなたが伝えたい「思い」とは？

「生徒とともに生涯かけて成長できるような教師になりたいと強く思いました。」

「全員が参加して、互いが学び合える授業づくりと環境づくりに努めたいと思います。」

これは、神奈川県教育委員会で行っている「かながわティーチャーズカレッジ」（教員志望者のための講座）における、ある日の感想です。皆さんも、このような“熱い思い”を持って教師になったことでしょうか。その思いを生徒に伝えてください。

## 2 育てたい生徒像を思い描く

### 目標を明確にする

毎日教壇に立ち、より良い授業について考える日々、皆さんは生徒をどのように育てようと考えていますか？

年度当初に、学校の教育目標や教科の目標、個人の目標について考え、その目標の実現に向けて努力していることでしょう。

私たちは常に、「育てたい生徒像」という目標を明確に持って授業に臨む必要があります。 → 2章-1、2

#### ☆学校の教育目標とは

学校教育目標は、学校の特色、課程の特徴といった学校の果たすべきミッションに関わるものから、地域との連携等、学校の周辺環境に関わるものまで、広範囲にわたり、練り上げられています。学校の使命は急に変化することがないので、比較的長期的な見通しを立て、複数年同じ目標を設定することが多いです。

### 学校の教育目標を踏まえること

「皆さんの勤務する学校の教育目標は何ですか？」

教師一人ひとりが、個々のスタイルで授業を行うことは、高等学校における魅力の一つであり、多様な価値観によって生徒の学びは幅の広いものとなります。しかし、学校全体という視野で見ることによって教科の枠を越えた共通の課題が見えてきます。

学校の教育目標は、学校の大きな道標であり、その目標の実現に向けて、全ての教師が足並みを揃えることが重要です。

### 明確な目標の共有

同僚と目標を共有することで、互いの理解を深め合うことができます。するとともに、協力して課題にあたることができます。

また、常に生徒に対して明確に目標を提示することで、ぶれのない高い教育効果を生み出すことができます。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 自立した人間の育成

一人ひとり個性が違う生徒について「育てたい生徒像」は本来一人ひとり異なっているべきものなのかもしれません。

しかし、それぞれの良いところを伸ばし、自己肯定感を育み、胸を張って歩いていける自立した人間に育てて欲しいという思いは共通の願いではないでしょうか。



# 教科で育てたい生徒像

「どのように授業をすればよいか」という授業技術について考える前に、「どのような生徒を育てたいか」ということについて、考えましょう。

「育てたい生徒像」がはっきりしていると、授業の組立てが明快となり、生徒に伝えたいことがはっきりする分かりやすい授業となります。生徒も自己評価しやすく、学習意欲が向上します。



## 「作品づくりだけが目標？」

美術・工芸の授業では作品を制作することだけが目標になっていませんか？

例えば、陶芸の授業を例にすると、「陶芸をさせよう」ではなく、「陶芸」という学習活動を通して身に付けさせたい力を育むことを目標とします。例えば、「子どもが使いやすい器」といった題材により目的や機能などを考えた表現力の育成を目標に設定したり、「自分の気持ちを表した造形(抽象彫刻)」といった題材により感じ取ったことや考えたことを基にした表現力の育成を目標に設定したりすることなどが考えられます。

分かる喜びを味わわせる

### 3 生徒が主体の授業

#### 分かる喜びを与える授業

知るが「分かる」になり、納得に至る。「なるほど！」と心にストンと落ちる（納得する）分かり方をしたときに、分かる喜びを感じ、生徒の目は輝きます。

では、どのようなときに、生徒は分かる喜びを感じるのでしょうか。分かりやすく丁寧に教えたとしても、それが一方的な教え込みだとしたら、生徒の内面に揺さぶりを掛け心を豊かにすることはできず、生徒の心の中に落ちてはいきません。生徒自身が課題を見だし、解決し、分かる喜びを感じる授業を目指していきましょう。

#### 生徒が主体の授業とは

どのような力を身に付けるために学んでいるのかという、授業の目的を生徒に伝えることが大切です。学習の目的を知ることで、意欲が高まり、生徒は主体的に学ぼうとするでしょう。

また、主体的な学びを実現させるためには、生徒の実態を踏まえて教材を用意することや、生徒が自ら考えるための時間を確保することが大切です。

#### 「分からない」と言える授業

授業中に、生徒が「分からない」と言える授業を心掛けましょう。誰にでも苦手な教科・科目があります。分からないことを共有し、生徒同士の学び合いによって解決することで、一人の「分からない」が皆の「分かった」になり生徒たちは目を輝かせることでしょう。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 個に応じた指導を！

本人の努力ではカバーできない領域があることも押さえておく必要があります。個に応じた課題など、主体的に学んでいけるカリキュラムの工夫が必要です。

#### 目標はスモールステップで！

「ちょっとがんばったらできたよ。」そんな思いや経験が大切です。達成感が次の意欲へとつながります。

目標はスモールステップで考えていきましょう。

目標

## 生徒が主体の授業づくり

生徒が主体の授業をつくるために、生徒の実態に合った課題や活動を組み立てることと、十分な活動の時間を確保することが必要です。

生徒の活動を想定して準備することが大切です。→ 2章-10

### 「生徒主体の授業づくり」チェックリスト

#### 【課題づくり】

- 生徒一人ひとりの理解度や意欲の把握をしているか。  
→ 1章-6、4章-2
- 学ぶことの有用性や必然性が感じられる教材や課題となっているか。 → 2章-9
- 達成感が得られる、知的満足度の高い課題か。  
→ 2章-9

#### 【展開の工夫】

- 生徒の興味・関心や知的好奇心を呼び起こすような仕掛けがあるか。
- 問題解決的な学習や発見的な学習活動を取り入れているか。  
→ 2章-8
- 生徒の考えを広めたり、深めたりする発問を準備しているか。  
→ 3章-3
- 考えさせる時間を適切に確保しているか。
- 生徒が自分の考えを発言し、振り返ることができる場面があるか。 → 3章-2、2章-8
- 思わず「なるほど!」と感じられるヤマ場はあるか。
- 生徒の良い面を引き出す場面があるか。
- 学習につまずいている生徒に対して、適切な支援を考えているか。 → 1章-6

## 動機付け

「楽しいからやってみたい」「おもしろいから学びたい」という好奇心や関心をもたらすモチベーションを、「内発的動機付け」といいます。「やらないとお小遣いが減らされる」「テストで高得点を取りたい」など、義務や賞罰など学習以外の目的がもたらすモチベーションを「外発的動機付け」といいます。

主体的な学習を進めるためには、動機付けが必要です。継続的な学習につなげるためには内発的動機付けの方が望ましいといわれています。

## 4 生徒のことが分かる場面

### 授業の中で、生徒を知る

授業中、どのような場面で、生徒の様子が把握できるでしょうか。例えば発問したときに、表情やしぐさを見て、「意味が伝わっていないかな」と思うことはありませんか。また、課題を提示したときに、なかなか取り組めない生徒がいるとしたらどうでしょう。その生徒にとって、難しく回答が分からないのか、書くことをためらっているのか、取り組みたくないのか、生徒の立場に立って考え、生徒を知ること努めましょう。

### 生徒を知ると、授業が変わる

生徒の興味・関心や既習事項への理解度等を把握していると、授業でどのような反応をするか、ある程度予想できます。生徒の実態に合わせた授業づくりができ、予想外の反応にも落ち着いて対応することができます。

### 授業以外で、生徒を知る

生徒の様子は、授業以外の場面でも把握できます。例えば、生徒と一緒に掃除をしながら、授業のことについてどんな感想を持っているのか、聞くことができます。また、部活動や委員会活動の指導を行う中で、生徒の学習状況を聞くこともできます。

このように、学校生活全般を通じて、授業に対する生徒の率直な感想を聞いたり、生徒のことを理解したりする機会はあります。

生徒と触れ合う場面を大切にしましょう。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 行動観察から見えてくるもの

生徒の気になる行動について、いつ、どんな場面で起こるのかなど、観察を続けてみましょう。行動ばかりに注目せず、背景に何があるのかを考えていくことが大切です。判断がつきにくい場合は、他の教師や教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーに相談してみましょう。





## 生徒のことが分かる場面

### クラスの雰囲気

生徒の表情を見ることで、授業の内容を理解したのか、納得したのかなど、クラスの雰囲気を感じることができます。授業内容に納得したときは、無意識にうなづくというジェスチャーが見られます。

### アンケート

板書、声の出し方、説明の仕方などの授業技術や、授業の改善を図ったことによる成果など、教師の知りたいことを焦点化して聞くことができます。

また、自由記述欄への記述では、生徒の率直な感想や教師が予想していなかった反応を知ることができます。

### 発問

発問によって、理解の程度や思考過程などの生徒の認識を把握することができます。しかし、正解だけを問う一問一答だけでは不十分です。なぜそう考えたのか、どう思ったのかと発問することが必要になります。また、理由を問うことで、生徒の思考力を育成することにもつながります。→ 3章-3

### 生徒との語らい

授業が終わったとき、生徒にとって今日の授業はどうだったのか、ちゃんと理解したのだろうかと気になります。そこで、「今日の授業はどうだった？」と直接生徒に語りかけてみましょう。授業が終わり、ホッとして緊張が解けたとき、生徒は本音で授業のことを語ってくれます。

また、語りかける際には、「今日の授業分かった？」ではなく、「今日の授業で分からなかったことは？」と聞いてみるとよいでしょう。生徒の言葉を真摯に受け止めて、授業づくりにつなげてください。

### プロフィールノート

生徒の性格や仲の良い友人、得意なことや苦手なこと、部活動や趣味など、様々な角度から生徒のことを把握できるように、「プロフィールノート」を作ってみてはどうでしょうか。一人1ページ位の分量が活用しやすいです。また、その生徒との授業中の関わりをメモしておく、指導にもつながります。

ただし、個人情報の取扱いには十分注意しましょう。

ここがポイント ……………

……… 高校生は大人でもあり  
……… 子どもでもある  
………

## 5 高校生の特性を知ろう

### 大人社会に進むための準備期

平成21年9月、文部科学省、子どもの徳育に関する懇談会から出された、「子どもの徳育の充実に向けた在り方について（報告）」では、青年中期（高等学校）における発達の特徴を「親の保護のもとから、社会へ参画し貢献する、自立した大人となるための最終的な移行時期である。思春期の混乱から脱しつつ、大人の社会を展望するようになり、大人の社会でどのように生きるのかという課題に対して、真剣に模索する時期である」としています。

#### ☆かながわ教育ビジョンでは

自分らしさを探求する段階（青年期）として、高校生を位置付けています。

確かな学力を身に付けるとともに、様々な体験や経験を通じて生き方や進路を考え、自分らしさを探求し、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性を培う時期なのです。

### アイデンティティーを探す旅

この時期は、自分と他人との違いを強く意識しながら、ありのままの自分を受け入れられず混乱しがちなものです。

高校生とは、自信と不安を抱きながら、自分とは何者であるかというアイデンティティーを探し求める旅人であるといえるでしょう。

### 多感な高校生

生徒は一日の中でもコロコロと違う表情を見せます。高校生という多感な時期は、ほんのわずかなことにでも敏感に反応してしまう年頃なのです。休み時間と授業中の切り替えができず、友人とのトラブルを教室に持ち込むこともあります。いかに気持ちを切り替えて授業に集中させるのか、気持ちのコントロールができるような支援も必要です。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 高校生の学校不適應

不登校などの学校不適應に対しては、未然防止・早期発見・早期対応が求められています。こうした生徒の中には同年齢の生徒とのコミュニケーションの苦しさから「休み時間など、何をしたいかわからない時間が一番つらい」という生徒もいます。そのような生徒に寄り添って、個別に対話をしていくことも大切です。



## 高校生の学習状況

平成27年度に実施した、「神奈川県立高等学校学習状況調査」の学習に関するアンケートによると、「勉強が好き」と回答した生徒は全体の19%、「勉強が大切だ」と回答した生徒は93%でした。

ところが学校の授業以外に、1日平均どのくらい勉強をするかについては、1時間未満が82%に上り、特に「まったくしない」との回答は44%でした。勉強は大切だと考えながら、自分から取り組もうとする姿勢は弱い面が見られます。

しかし、勉強する理由を尋ねたところ、「好きな仕事に就くのに役立つから」との回答が最も多く69%もあることは、自分自身の人生設計において、勉強が必要であることを強く認識していることがうかがえます。

このことから、生徒の知的好奇心をかきたてる授業の実践や家庭での学習の充実に向けた雰囲気づくりを行うだけでなく、「教師がキャリア教育の視点を持つ」ことが重要になってきます。

## キャリア教育の視点で考えよう

高校生は社会に出たときの自分をどうイメージしているでしょうか。生徒自身に、学習したことと自分の将来の生活とを結び付けて考えさせることが大切です。

例えば、栄養士になりたい生徒が調理の技能や化学成分の知識の大切さを意識して学習に取り組むことや、旅行会社に就職を希望している生徒が外国語表現の大切さや日本の伝統文化・歴史の良さを感じ取るといったことが挙げられます。

また、特定の職業とは直接関係なく、社会人として必要となる能力を身に付けさせることを意識することも大切です。例えば、数学で学習する「データの分析」では、新聞やテレビで使用される図表やグラフを理解するのに必要な「統計」に関する能力を養います。また、公民の「経済社会や経済活動」の学習は、生徒自身に大きく関わる雇用や社会保障に関する知識を身に付けさせることになりま

す。キャリア教育は、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立を目指すものですが、授業や特別活動など全ての教育活動を通じて行っていくべきものです。

### ☆キャリア教育とは

平成23年1月の中央教育審議会答申では、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」としています。

文部科学省は、キャリア教育で求められる能力を「基礎的・汎用的能力」として、以下の4つの能力を挙げています。

- ① 人間関係形成・社会形成能力
- ② 自己理解・自己管理能力
- ③ 課題対応能力
- ④ キャリアプランニング能力

### キャリア教育の参考資料

- 「高等学校キャリア教育の手引き」

平成23年11月 文部科学省

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/1312816.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm))

# 1章

## 授業づくりの前に 生徒を理解する

ここがポイント .....  
: 学び方も一人ひとり  
: 違っている

## 6 一人ひとりの理解の仕方

### 一人ひとりと向き合う

教師は教室内の多数の生徒と向き合って授業を行います。生徒にとって先生は一人であり、授業中は一人の先生と向き合っています。ですから、教師も一人ひとりの生徒と向き合っているという意識を持つことが大切です。生徒一人ひとりと向き合い、個々の生徒を理解することは、「分かる授業」をつくることにつながります。

#### ☆どの生徒に合わせて授業を行うの

多様な生徒が集まるクラスの中で、どの生徒に合わせて授業を行うと良いのでしょうか。

特定の生徒に対する支援は、ほかの生徒への支援にもなるかもしれません。

神奈川県では、障害の有無にかかわらず、すべての子どもを対象として支援教育を展開しています。

支援教育という視点から、様々な支援を授業に組み込むと良いでしょう。

→ 3章-9

### 一人ひとりの学習観・学習スタイル

高校に入学するまでの9年間の学習経験によって、一人ひとりの「学習観」や「学習スタイル」は大きく異なります。

教師はもちろん、生徒自身も自らの学習観や学習スタイルの傾向を知ることによって個々に適した教え方・学び方を見つけることができます。典型的な学習観や学習スタイルを知っておきましょう。

### 相手のことを考える

授業には、情報を伝え理解を得るという、いわゆるプレゼンテーションの場面があります。プレゼンテーションの語源はプレゼント、人に何かを話すのは贈り物をすると同じことなのです。

プレゼントも授業も一方通行の自己満足のものでは意味がありません。相手が必要なことを、相手の立場に立って考えることが大切です。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

#### 一人ひとりの正しい理解が大切！

認知の偏りや集中の難しさ、社会性の育ちにくさなど、困難な局面だけに注目し、できるようにと励ますだけでは、うまくいかないことがあります。

一人ひとりの生活や文化的背景、経験やつまずきを、対話を通して理解し、生徒の持っている力をいかにせるように意欲を高め、継続的で一貫した支援をしていく必要があります。



## 学習観の違い

生徒の持っている学習にとって大切なこと、効果的なことについての考え方は、認知カウンセリングのような個別学習指導を通して類型化されています。

例えば、「どういう風に取り組むか考えてから勉強するのは効果的だ」と考える生徒もいれば、「ミスや失敗をしても後の学習にその反省をいかしていくことが大切だ」という生徒もいます。また、「意味を考えるよりもまず丸暗記してしまうことが重要だ」という生徒もいれば、「とにかく多くの問題を解くことが最も大切だ」と考えたり、「どうしてこうなるのかよりも、とにかく正答であれば良い」と考える生徒もいます。

一人ひとりの学習について抱いている信念（学習観）を把握して、学習の仕方についての指導にいかしましょう。

生徒の持っている学習観と授業のねらいが合わないと、学習が成り立たないこともあります。その際には、生徒の学習観を認めた上で、望ましい学習観を示すとよいでしょう。

### ☆学習スタイルとは

学習スタイルとは、生徒が学習に取り組むときに好んで用いる方法のことです。

巻末の参考資料一に生徒の困り感についてのチェックリストがありますので、参考にしてください。

## 学習スタイルの違い

得意な感覚様式によっても、個々の学習スタイルが違ってきます。

例えば、暗唱に取り組む場合、目で見て暗記することが得意な生徒もいれば、耳で聞いて覚えることが得意な生徒や、体を動かすことで暗記しやすくなるという生徒もいるでしょう。

それらに合わせた指導の仕方を工夫していくことが大切です。

### 〈例〉 「感覚様式の違いによる学習活動」

#### 目で見ると

- 模造紙に書いたものを壁に貼る
- 場面ごとに絵にしたものを順に貼る
- 部分ごとにフラッシュカードで示す

#### 耳で聞く

- 音読する
- 朗読テープを聴く
- BGM 付きの語りを聴いて覚えた後で、BGM だけを聞いて復唱する
- 歌にする

#### 体を動かす

- フレーズごとに動きを付ける
- 劇にして演じながら発声する
- ひたすら書いて覚える

## 7 最適な学習環境をつくろう

### 学習環境とは

学習環境とは、一人ひとりの生徒を取り囲んでいる全てのことといえます。教室内の明るさ、温度、耳に入ってくる音、机の上の状況、周りの雰囲気、ほかの学習者の動きなどが挙げられます。教師は、生徒が学習に集中できるように、学習環境を最適な状態に保つように気を付けなければなりません。

また、教室は生徒が1日のうちで最も長い時間を過ごす場所です。生活の場としての教室は、居心地の良い場所でなければなりません。

### 整備された環境が第一歩

清潔な教室、整理整頓されている教室は、とても気持ちがよく、居心地の良さを感じます。こうした教室の中では、生徒は落ち着いて生活や学習をすることができます。

教師は、生徒の声を聞いたり、生徒の状況を常に観察したりしながら、適切な学習環境がつくられているかどうか、確認することが必要です。

### 居心地が良いとは・・・

生徒は、安心していられる場所、自分が認められる場所、自分の役割を果たせる場所など、いろいろなときに居心地の良さを感じるでしょう。そのためには、学び合いを通して、互いを認め合える集団をつくる必要があります。生徒が自信を持って自分の考えを発表し合う場面をつくってみましょう。

個別指導  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 私物を片付けられない生徒には・・・

準備や片付けが苦手な生徒には、学校の物品だけではなく、個人の持ち物も「何を」、「どこに」しまうのかを見て分かるようにしておきます。自分の物を取りあえず1カ所にまとめるための「何でも収納箱」を机の横に設置するの一つの方法です。



#### 勝手に発言する生徒には・・・

目に見えた物や、聞こえてくる音・声、教師や級友の言葉が刺激となり、思いついたままに言葉を口にする生徒もいます。発言内容やその意欲を認めつつ、具体的にルールを伝えていきます。



## 「学習環境づくり」チェックリスト

### 【授業前】

- 教室の明るさ、温度、空気の状態は良いですか？
- 教室の床にゴミが落ちていませんか？
- 生徒の私物が教室内に散乱していませんか？
- 机がきちんと並ぶなど、教室が整頓されていますか？
- 黒板がきれいに拭かれていますか？
- 黒板の周りに必要以上に物が掲示されていませんか？

### 【授業の始まり】

- 机の上に教科書・副読本・ノート・筆記用具など授業で必要な物が出されていますか？
- 机の上に授業に不要な物が出されていませんか？
- 授業の始まりとともに、学習の準備ができていますか？

### 【授業中】

- 授業の活動の中では、節度ある適切な態度や言葉遣いで伝え合っていますか？
- ほかに人の発言を聞く姿勢や、発言したい場合の意思表示の仕方が身に付いていますか？
- 互いに気持ちよく学び合う環境づくりのために、服装や姿勢に気を配っていますか？

### ☆持ち物「基本セット」

授業の際に、常に用意させたいものは何でしょう。

例えば、国語科ならば、教科書、ノート、辞書、文法書などが考えられます。教科・科目によって必要なものを生徒に伝え、必ず持参させましょう。

持ち物を徹底させることで、教師の授業に対する姿勢が生徒に伝わります。

また、持ち物として生徒に用意させたものは、必ず授業で活用しましょう。

### ☆「授業規律」を大切に

最適な学習環境づくりには、「授業規律」や「生徒指導」に関する視点が欠かせません。学校や学年全体で統一したルールを設けている場合があります。その情報把握をしましょう。

このほかにも学校によって様々なチェック項目があるはずです。それぞれの学校で、あるいは教師間で話し合い、共通認識を持ってチェックリストを作成するとよいでしょう。

### 授業の雰囲気づくり

授業を始めるとき、いつもと違う雰囲気を感じる場合があります。前の授業で嫌なことがあったり、休み時間などに友達とトラブルがあったり、あるいは楽しいことがあって気持ちが高ぶっていたりと、様々な状況が考えられます。その際には気持ちを切り替える工夫が必要です。

生徒の状況に合わせて、例えば、静かに語りかける、1分間目を閉じて気持ちを落ち着かせる、生徒の興味のある話をするなどしてみましょう。簡単な学習クイズも有効です。

ここがポイント .....  
言葉掛けや動作に  
気を付けよう

## 8 教師も教室環境

### 教室環境とは

教室環境といえは、座席の配置や教室の掲示物の貼り方、採光や空調など、生徒を取り巻く教室の状態を思い浮かべるでしょう。しかし、それだけでなく教師自身の存在も、教室環境を構成する重要な要素なのです。

### 教室における先生の存在感

はじめて教室に入り、教壇に立ったときのことを思い出してみましょ。生徒の期待や不安の混じった視線が自分に向いていたはず。そんなときに、暗い表情を見せたのでは生徒が不安になります。一方で明るすぎても違和感を感じると思います。

生徒にとっては、教師の一挙手一投足が教師の人物評価につながっています。教師がどのような姿勢で生徒に接していくか、日々の積み重ねが教室とクラスの雰囲気をつくっていきます。

### 魅力的な大人としての教師

教師は生徒に大きな影響を与えます。生徒から一目置かれるような、魅力的な教師でありたいものです。

#### 尊敬できる魅力的な大人としての教師

- ★ 自身の立場と責任にふさわしい態度で行動する
- ★ 身だしなみがきちんとしている
- ★ 魅力あられる憧れの存在となる
- ★ 学び続ける姿勢を持つ

#### ☆教師の身だしなみ

身だしなみに、人柄や仕事に取り込む姿勢が表れます。清潔感のある、きちんとした服装で生徒と向き合い、教師のやる気を伝えましょ。その際には、TPO に合った服装を心掛けることが大切です。

また、服装だけでなく、髪型、アクセサリー、口臭など、生徒は教師の身だしなみに注目しています。

個別指導  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### ポジティブな言葉を使おう！

禁止・否定の言葉に過度に反応する生徒や、反語的な意味理解が難しい生徒には、望ましい行動を具体的な短い言葉で伝えることが有効です。「×××をしてはいけない」ではなく「○○○をしましょ」のように、常に「肯定的な表現」で伝えましょ。

#### アイコンタクトを上手に使おう！

言葉を掛けるだけでなく、「視線」、「うなずき」、「表情」、「手振りサイン」等、言葉を使わない表現でも支持・承認を伝えていくことで、生徒との信頼関係（ラポール）は築いていきます。





